

令和3・4・5年度 島原市教育委員会指定

研究紀要

研究主題

「自分の思いを生き生きと伝え合う主体的な子どもの育成」

～効果的な言語活動の位置づけによる楽しい外国語活動・外国語科を通して～



【ハウステンボスでの English Challenge】



令和5年11月22日(水)

島原市立第四小学校

研究の概要

研究経過

令和3年度の取組

- 外国語活動・外国語科の指導過程の共通理解と共通実践、研究授業の実施。
- Classroom English の研修と授業や日常生活での実践。
- 外国語教育の理論研究。
- コミュニケーションポイントの設定とそれらを意識した授業実践。

令和4年度の取組

- Unit 全体を見通した「Unit's Goal」の設定をもとにした授業実践と検証。
- 「目的、場面、状況」等の設定をし、思考しながら自分の思いや考えを伝え合う言語活動の研究。
- 外国語を身近に感じ、触れられるような学校全体での環境整備。
- 6年間を見通した「English time」のカリキュラム作成及び「English time」の活動実践。

これまでの成果

- 単元のゴールとなる「Unit's Goal」をもとにした単元計画により、単元全体を通して児童が目的意識や相手意識をもって授業に臨む姿が見られるようになってきた。
- 単元のゴールを意識した「Activity」を授業の中に取り入れることにより、学習のねらいが明確になり、児童の主体的に学ぼうとする姿が見られるようになってきている。
- 指導者も外国語に慣れ親しもうとする姿勢が見られるようになり、日常の学校生活の中で外国語を自然に使用しようとする雰囲気がある。

明らかになった課題

- 外国語活動・外国語科における思考力、判断力、表現力等の育成のために、学年に応じた言語活動の更なる充実を図る必要がある。
- 学年が上がり、学習内容が多く高度になるにつれて、苦手意識をもつ児童への支援や手立てが必要である。
- 外国語への関心を更に高めるための環境整備や実態調査、検定等の学校で共通した取組が必要である。

令和5年度の取組

- コミュニケーションを行う「目的、場面、状況」等を明確に設定することにより、より効果的な言語活動の位置づけを図るための、単元のゴール及び授業での Activity の設定の研究。
- 様々な場面や状況における言語活動を多く経験できるような単元計画による授業実践。
(漆塗り型の単元計画とそれをもとにした授業実践 ※P4 参照)
- 苦手意識をもつ児童へのアプローチとしての、より充実した身近な外国語環境の整備。
(掲示物の工夫、ALT による英単語の読み上げ動画の作成と活用等)
- 外国語への関心を高め、日常化を図るための「English 検定」の計画と実施。
- 児童の実態を的確にとらえ、効果的な指導につなげるための統計調査。

本年度の研究構想

学校教育目標

やさしく 元気で 進んで学ぶ 杉谷っ子(タフな子)の育成

研究主題

「自分の思いを生き生きと伝え合う主体的な子どもの育成」

～効果的な言語活動の位置づけによる楽しい外国語活動・外国語科を通して～

研究主題及び副主題の捉え方

- 「自分の思いを生き生きと伝え合う」とは、コミュニケーションの目的、場面、状況に応じて、自分の思いや考えを、既習の外国語を用いて何とか伝え、コミュニケーションをとろうと主体的に活動する子どもの姿である。
- 「楽しい外国語活動・外国語科」とは、相手意識をもち、積極的にコミュニケーションをとったり、外国語を使ったりすることを楽しんでいる子どもの姿が見られる授業のことである。

本研究で目指す児童の姿

- 〔低学年〕 外国語の学習に、楽しく取り組む子ども
- 〔中学年〕 外国語でのコミュニケーションを積極的に楽しむ子ども
- 〔高学年〕 外国語科で学んだコミュニケーション力を生かそうとする子ども

研究仮説

外国語活動・外国語科の単元や授業等の学習過程において、目的、場面、状況に応じた言語活動を、意図的・効果的に設定することにより、自分の思いや考えを生き生きと伝え合い、主体的にコミュニケーションをとろうとする子どもが育つであろう。

I 授業研究

【主体的に学習に取り組むための授業づくり】

- より効果的な言語活動の位置づけを図るための、単元のゴール及び Activity の設定
- ねらいを明確にした English time の計画及び実践
- Classroom English の共通理解

II 環境整備

【外国語への興味関心を高めるための環境づくり】

- 英語コーナーの設置
- 英語カードの作成
- 各教室の英語カードや階段 English の作成と掲示
- ホームページに English Room を設置し、動画を作成

III 統計調査

【児童の実態を捉え、後の学びに活かす基盤づくり】

- 実態把握のための児童への English アンケートの実施と、結果分析
- 実態を踏まえた階段 English の活用方法の検討と運用（English 検定の計画と実施）

I 授業研究

【主体的に学習に取り組むための授業づくり】

本研究で目指す児童の姿をもとに、単元や授業構想を工夫し、言語活動の充実に努めることで、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

外国語科及び外国語活動の学習場面でのめざす子どもの姿の設定

各学年部において、「本研究で目指す児童の姿」をもとに、「外国語活動や外国語科等の学習場面で目指す児童の姿」を設定。

低	○外国語の表現に触れ、進んで発音しようとする姿 ○外国語を使ったゲームなどに、楽しく取り組む姿
中	○学んだ外国語表現を使って、伝え合うことを楽しむ姿 ○自分が伝えたいことを、伝わるように工夫しようとする姿
高	○相手のことを知るために、進んで外国語でコミュニケーションをとろうとする姿 ○既習の単語や表現を用いて、自分の思いを伝えようとする姿

効果的な言語活動の位置づけを図るための単元のゴール及び Activity の設定

単元のゴール		Activity
児童が目的意識や相手意識をもって主体的に学習に取り組めるようにするための効果的な <u>単元のゴール</u> を設定する。		子どもが目的意識や相手意識をもって言語活動に取り組むことができるよう、ねらいを明確にした <u>Activity</u> を意図的に設定する。
[「単元のゴール」の設定例]		[Activity①と Activity②の関連]
3 年	教えて！みんなのイニシャル イニシャル自己紹介をしよう！	<Activity①> 本時で扱う単語や表現に慣れ親しむためのゲームやクイズ等の Activity を設定する。 <Activity②> Activity①よりも少し難易度を上げ、目的・場面・状況を明確にしたやり取りや発表を行う言語活動を設定する。
4 年	新発見！好きな時間を伝え合い、友達や先生との絆を深めよう。	
5 年	Christina 先生や四小の先生方に、「夢に近づく時間割」を紹介しよう。	
6 年	理科で学習した食物連鎖を、英語を使って紹介し合おう。～安藤先生や Christina 先生に伝えよう～	

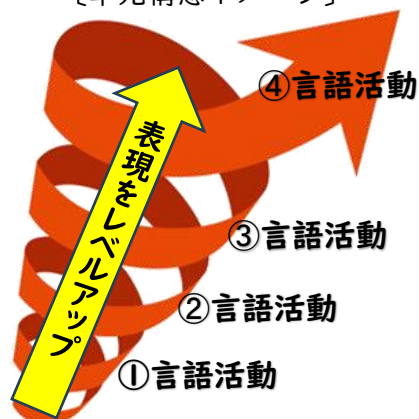
共通した授業過程及びコミュニケーションポイントの設定

授業過程	コミュニケーションポイント
①Greeting(あいさつ) ②Small talk や Let's Chant や Let's Sing ③Unit's Goal や Today's Goal ④Practice ⑤Activity① ⑥Activity② ⑦Looking back(振り返り) ⑧Finish	○clear voice (はきはきと伝わる声で) ○eye contact (相手の目を見て) ○gesture (身ぶりを加えながら) ○reaction (しっかり反応する) ○smile (笑顔でのやり取りを)
学年が変わっても教師も児童も安心して学べる授業過程を設定する。	自分の思いや考えを伝える時の大切なポイントを Activity の際に意識させる。

漆塗り型の授業実践

単元のゴールに向けて言語活動を繰り返し行う中で、必要な力を身に付けていくことを目指す。

〔单元構想イメージ〕



実際のコミュニケーション場面を設定して行う。
※毎回の設定は、相手や場面、状況等を変更。



指導案集

【実践指導案集】

- ④（第4時）単元のゴールとして設定した言語活動を行い、単元を通して身に付いた力を実感する。
- ③（第3時）新しく出会った語句や表現を使った言語活動を行い自身の成長と課題を認識する。
- ②（第2時）新しく出会った語句や表現を使った言語活動を行い自身の成長と課題を認識する。
- ①（第1時）次につながる失敗を経験し、自分に足りない単語や表現を認識することで、学ぶ必要感を感じ、意欲と目的意識をもつ。

子どもたちとともに、既習事項を振り返ったり、どうやったら言えるか考えたりする時間を確保しながら、子どもたちに繰り返し言語活動を経験させることで、語彙や表現をレベルアップさせていく。

ねらいを明確にした English time の計画と実践

週に1回、朝の時間に、英語を楽しく学ぶ時間として English time を設定。

- 発達段階に応じた系統性を意識した全6学年における計画を立てる。
- ねらい（練習、定着、活用等）を明確にして効果的な活動ができるようにする。
- ・低学年は、外国語を用いた歌やゲーム等の Activity を通して、外国語に触れることを楽しみ、慣れ親しむことに重点を置くように作成した。
- ・中・高学年は、外国語活動・外国語科の授業との関連や外国の文化に触れることに重点を置くように作成した。
- ・令和5年度の3年生と5年2組の授業は、外国語専科による指導のため、担任と専科との連携を密にしての実践を意識した。

R4年度 第1学年 English time 年間指導計画			
	題 材	活 動 内 容	ゲーム等
5	あいさつ	あいさつの仕方を知る。	フラッシュカード
	感情表現	感情表現の仕方を知り、あいさつの幅を広げる。	フラッシュカード
	果物	果物の名前の言い方を知る。	キーワードゲーム
6	果物	ゲームをしながら果物の名前の言い方に慣れる。	ミッシングゲーム
	果物	果物の名前の言い方を知る。	キーワードゲーム
	色	色の名前の言い方を知る。	フラッシュカード
	色	色の名前の言い方に慣れる。	色塗りゲーム
7	数字	数字の言い方を知る。(0～7) ♪ Seven steps	フラッシュカード
	数字	数字の言い方に慣れる。	ビンゴゲーム
	天気	天気の言い方を知る。	フラッシュカード

〔English time 計画例：第1学年〕

Classroom English の共通理解

日常的に英語を話す雰囲気づくりとして Classroom English の運用。

朝の会や帰りの会、授業における始めや終わりのあいさつ、配付プリントの受け渡し等において英語表現を用いてコミュニケーションをとることを、全学年共通の取組とした。そうすることで、英語の日常化を図る。

- ・Let's start ○○ .(始まりの号令)
- ・Let's finish ○○ .(終わりの号令)
- ・Here you are. ・Thank you.
- ・You're welcome. など

II 環境整備

【外国語への興味関心を高めるための環境づくり】



【掲示物資料】

外国語や外国の文化に親しみやすくするために掲示物による校内の外国語環境を整えることにより、外国語への興味関心や学習意欲の向上を図る。

英語コーナー「HELLO WORLD」の設置

子どもたちが必ず通る階段踊り場に英語コーナーを設置。

〔世界地図と主な国の国旗やその国のシンボル〕



〔今日の気分と日付〕



〔日常会話の中で使えたら便利な英語表現〕

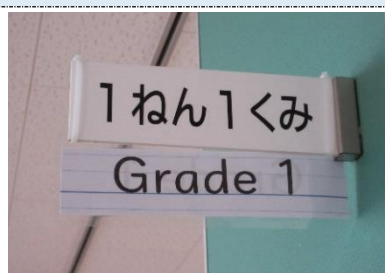


〔アルファベットの太文字と小文字〕



各教室の英語カードの作成と掲示

校内の各教室の表示札に英語表現を追加。



✚ 学習カードの作成

授業で使う各種カードを作成。

〔学習過程カード〕



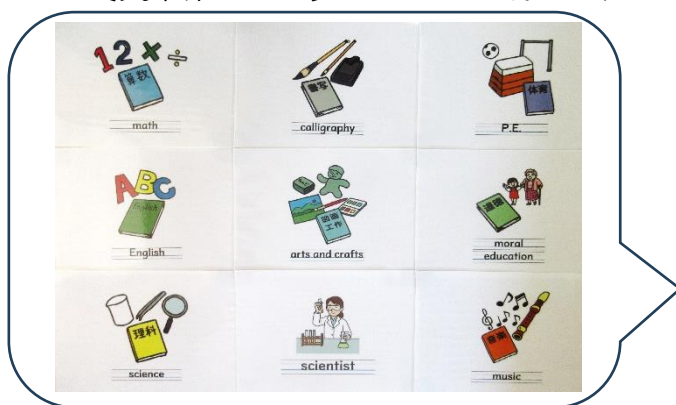
〔コミュニケーションポイント〕



〔リアクションカード〕



〔英単語カード〕 カテゴリー別にし、ファイルに保存し、職員室に常備。



✚ ホームページに開設した English Room の活用

階段 English (階段に掲示した英単語カード) の整備と、ALT による英語読み上げ動画の作成と活用。

〔階段 English〕



〔ホームページの英語読み上げ動画〕



III 統計調査

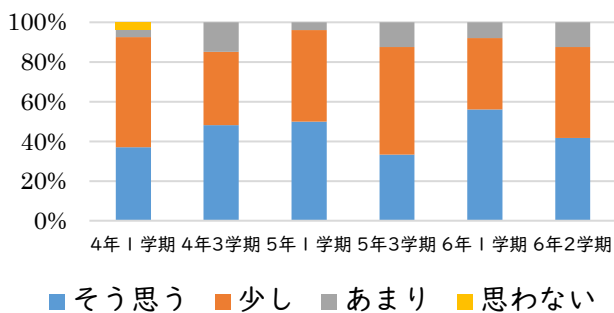
【児童の実態を捉え、後の学びに活かす基盤づくり】

実態把握のための児童への English アンケートの実施と結果分析を行い、見えてきた実態に合わせた階段 English の活用方法の検討と運用（English 検定の計画と実施）

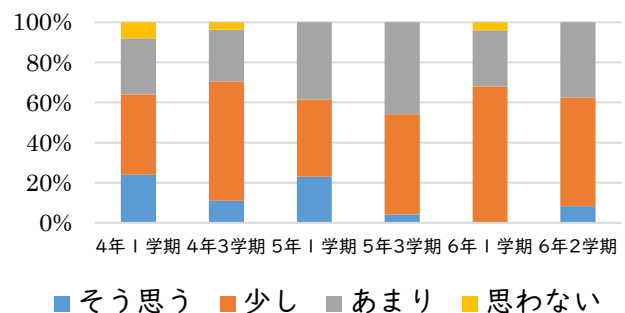
English アンケートの結果と考察

同一母集団による経年比較。（高学年 外国語科）

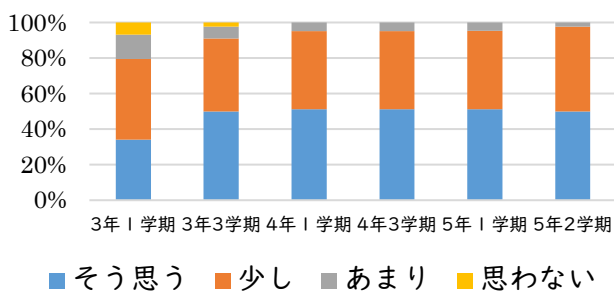
現6年生 英語は好きか



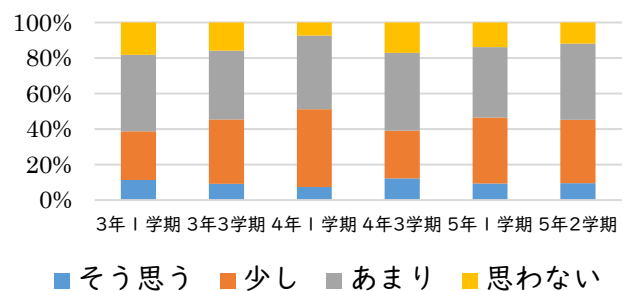
現6年生 英語は得意か



現5年生 英語は好きか



現5年生 英語は得意か



〈結果〉

- 「英語が好きか」という問いに関しては、全体的に「そう思う」「少し思う」という回答が多い。学年が上がっても大きな変化はないが、「全く思わない」が減少している。
- 「英語が得意か」という問いに関しては、「好きか」と比較すると「そう思う」「少し思う」が少ない。また、学年が上がるにつれて、その回答は減少している。

〈考察〉

- 学年が上がることで「得意である」という回答が減少するのは、内容が難しくなり複雑になるため、自然なことであると考えられる。
- 「得意」と答える児童が5～6割程度に留まっているのは、好きであるがために「完璧に発音しないといけない」「正しい言葉を使わないといけない」などと自身に求めるハードルが高く、自分のパフォーマンスに自信をもていない児童が多いのだと考えられる。その一方で、外国語の学習が「好き」と答える児童は9割と多く、学年が上がってもあまり減っていない。言語活動においては、「目的・場面・状況」を意識的に設定し、身近な人物や実生活に即した場面について扱うことで、英語を使う必要感が自然に生み出され、言語活動が充実し、児童は「好き」と感じられるのだと考えられる。

研究の成果と今後の取組

研究の成果

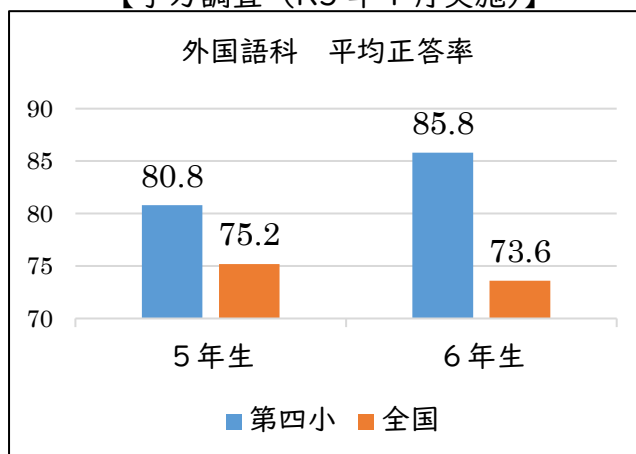
児童の変容

- ◎ 言語活動の設定、コミュニケーションポイントの活用等により、言語に加え、表情や身ぶり等を工夫しながら、何とかして自分の思いや考えを伝えようとする児童が増えた。
- ◎ 授業外での場面で、外国語(英語)を使ったコミュニケーションが多く見られるようになった。
 - ・朝のあいさつやプリントの受け渡し時。
 - ・社会科見学や修学旅行時に、外国の人達と積極的にコミュニケーションをとったり、楽しんだりしている姿が見られるようになった。
- ◎ 校内の外国語環境整備や「English検定」の実施により、外国語への興味関心が高まった。
- ◎ 右のグラフは、令和4年度1月（本研究2年目3学期）に実施した学力調査の外国語科における平均正答率である。5・6年生両学年とも全国平均を大きく上回っている。



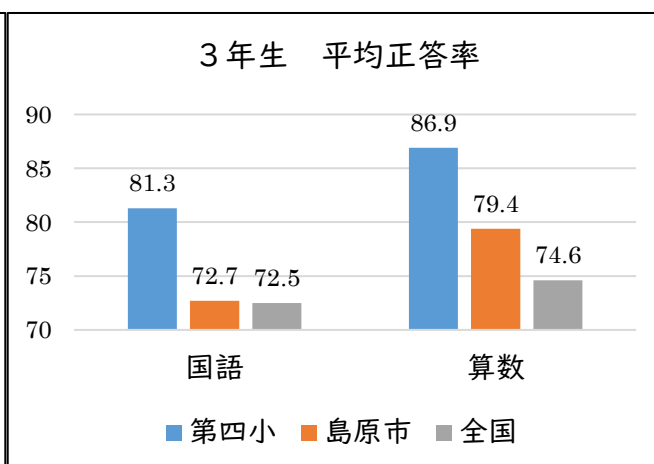
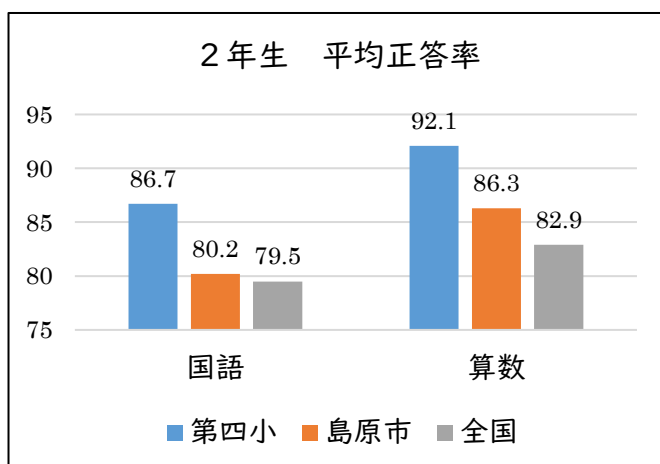
外国人観光客と話をする本校児童(4年生)

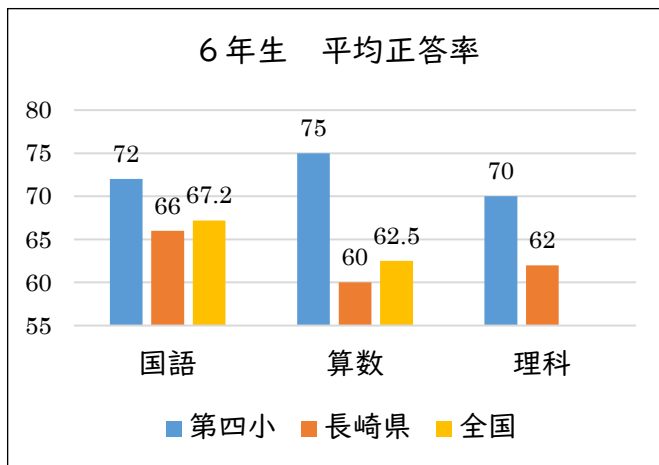
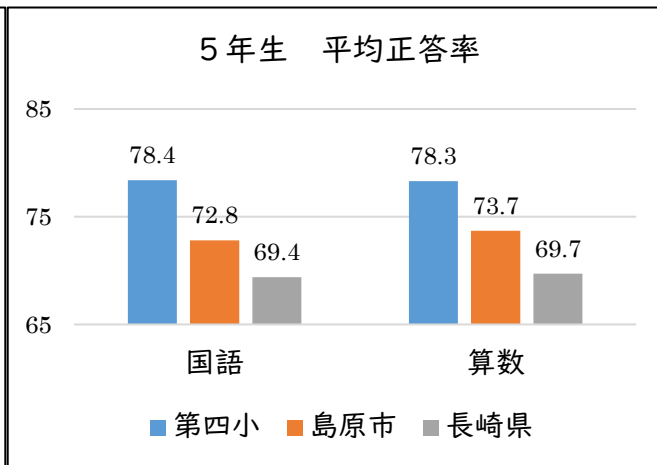
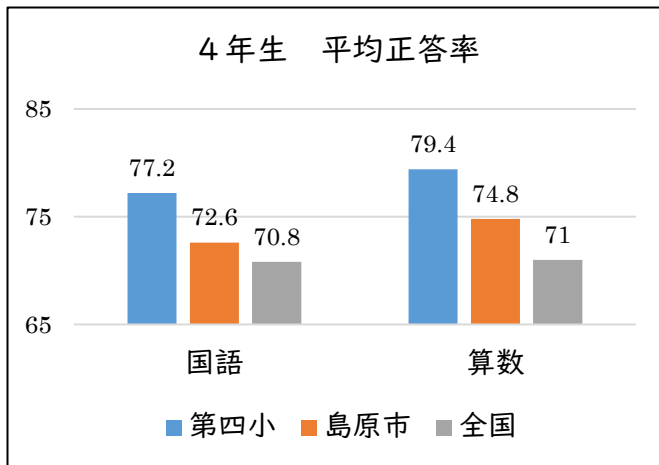
【学力調査（R5年1月実施）】



学力調査の結果から

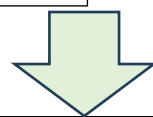
※ 以下のグラフについて、2～4年生は本校と市で実施している「島原市学力調査」、5年生は「長崎県学力調査」、6年生は「全国学力・学習状況調査」（いずれも本年4月実施）の結果である。





【結果】

- ◎ 2～4年生において、全国及び島原市の平均正答率を両教科で上回っている。
- ◎ 5年生は長崎県及び島原市の平均正答率を両教科で上回っている。
- ◎ 6年生は、全国及び長崎県、島原市それぞれの平均正答率を全教科で上回っている。



【考察】

- ◎ 外国語活動・外国語科の研究により、他教科においても“生き生きと学ぶ”児童の姿が多く見られるようになり主体的に学ぶ態度の育成につながっている。
- ◎ 各教科の話合い活動において、相手意識をもち、相手に伝えようという意識で話したり、相手の話を理解しようとして聞いたりする様子が見られるようになった。

【今後の課題・取り組むこと】

- 各種コミュニケーションの場面において、確実性や正確性を重要視してしまう児童の意識改革を図り、より自信をもって自分の思いや考えを伝え合うことのできる児童の育成に資するため、外国語活動・外国語科を中心とした授業改善を図る。
- 学力だけでなく学ぶ姿勢において、全体的には向上傾向にあるが、そうでない児童もあり、二極化の傾向があるため、より一層の言語活動の工夫に取り組む。
- 外国語活動・外国語科を中心に指導と評価の一体化を意識した単元指導計画や評価規準の設定の研究を重ねる。
- 児童の英語をはじめとする外国語への興味関心をより一層高めるため、環境整備や統計調査、検定の実施等の取組を継続していく。



【 研究同人 】

【 令和5年度 】

校 長	大槻 浩二	専 科	山本 信子
教 頭	園田 栄作	英語専科	松永 希
教 務	安藤恒治朗	A L T	Christina Higgins
1年1組	松本美由紀	養護教諭	溝田美奈子
2年1組	永石 圭一	栄養教諭	島本 理恵
3年1組	福嶋 仁美	ICT加配	木下 直美
4年1組	佐仲 健太	事務職員	坂井 優花
5年1組	山口 亜希	学習支援	天野 春美
5年2組	勝井 大輔	学校司書	松田 由香
6年1組	松尾美由紀	校務主事	草野 誠
たんぽぽ	本多 雄也	事務補助	町田 延子
なかよし	横田真智子		
ま な び	宮本季代子		
教 諭	入江 智絵		

【 令和4年度 】

1年1組	梶山 裕子
なかよし	渡邊 由美
専 科	中村 眞一
教 諭	橋本 徳彦
事務主任	鐘ヶ江 剛

【 令和3年度 】

たんぽぽ	吉田 幸雄
英語専科	田口 裕子
事務補助	吉田 一美
学校司書	林田 朋子

■島原市立第四小学校

〒855-0071

長崎県島原市宇土町乙 670 番地 1

TEL:0957-62-2410(職員室)

0957-62-7503(校長室)

0957-62-3907(事務室)

FAX:0957-62-1208

MAIL:dai4-sho@shimabara.jp

